

レファレンス

コーナー

統計データへのアクセス

近藤恭子

図書館にも統計に関する照会が多数寄せられるが、その際に適切な文献を限られた時間で紹介するのはなかなか難しい。試行錯誤のなかでいささか我流ではあるが、比較的良好に使用できる統計参考書、統計書、ホームページを紹介していきたい。

まず、どの資料を使ったらよいか見当がつかない場合どうするか。地域や国の統計データを求めているなら対象地域や国の総合年鑑や統計書を見るのもよいだろう。当館の参考図書および統計書は地域・国別配架になっており、そのコーナーに足を運ぶのもひとつの方法である。国際統計比較をしたいのなら国際機関の年鑑類を見るのが手取り早い。ただ、求めている統計書を探る際に参照するものがあれば探しやすい。次

に紹介する三冊はそんな指針となる文献である。

年刊の総務省統計局編『世界の統計』は項目別目次や索引から参照したい統計データをみつけられることができる。求めているデータがなくても各統計には出典と解説が付されているので、それを元に出典にあたりデータを探し出すことも可能である。総務省統計局統計センターのホームページから総合統計年鑑『日本統計年鑑』ともどもダウンロードもできる (<http://www.stat.go.jp>)。

木下滋他編『統計ガイドブック 社会・経済 [第2版]』(大月書店一九九八年)では、前掲書同様、項目別の目次と索引から統計書を引くことができるようになっていいる。大半は日本で発行されている日本の統計書であるが、外国統計およびインターネットサイトも添えてあり、参照すべき文献を見出すのに役立つ。項目の解説もしておりわかりやすい。龍谷大学社会科学研究所・吉田栄子編『統計・調査資料ガイド』(文眞堂 一九九九年)は四部構成。一章は統計総合ガイドとして統計の項目別の抄録で各資料の特徴を解説している。二章は主題別に検索できるようにになっており、三章は資料の創刊年から刊行時の社会的背景を探ることができる。巻末の索引は書名と発行機関から成る。

その他、当館ホームページ (<http://www.ide.go.jp/Japanese/Library/index.html>) にある「統計資料コン

テンツ」もアジア諸国や国際機関の主要統計リストを掲載している。同じくインターネット上で統計資料案内を開設しているのが筑波大学附属図書館 (<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/reference/foukei-siryou.html>) と慶応義塾大学三田メディアセンター (<http://www.mtlb.keio.ac.jp/reftool/statistics.html>) である。併せて参照されたい。

さて、近年インターネットの普及に伴い国際機関のホームページから統計をダウンロードすることも可能である。冊子体の統計書の方が安心して使えることもあるが、速報性と機敏性を考えると今後利用せざるを得ないだろう。よく参照する参考図書資料を紹介しながらいくつかサイトにもふれたい。

例えばアジア各国の社会・経済等の基礎統計を一〇年ぐらいいわたって調べたい場合、従来なら冊子体のアジア開発銀行の *Key Indicators of Developing Asian and Pacific Countries* や、国際連合アジア太平洋経済社会委員会の *Statistical Yearbook for Asia & the Pacific* を使ったが、前者は現在インターネット上でフルテキスト (PDF) または Excel (ファイル) で見ることができ、後者も冊子体よりコンパクトな統計データを手でできる。国連の年鑑には全加盟国を対象にした *Statistical Yearbook* もある。邦訳には、国際連合統計局編『国際連合世界統計年鑑』(原書房)、国際連合編・日本エスカップ協会訳『ア

ジア太平洋統計年鑑』の刊行物があるが、発行までは時間を要するので速報性に欠ける。

また、当館ホームページにもアジア二カ国の「アジア各国地域・経済統計」があり、簡単な国際比較はできる。

世界銀行のホームページからも発達途上国関連の統計データを検索・入手できる。出版物 *World Development Indicators* は開発問題に関する主要な統計で、①世界概観、②人口・厚生、③環境、④経済、⑤国家と市場、⑥グローバル・リンクの六章から成り、巻末に参考文献と指標索引が掲載されている。世界銀行編・島居泰彦訳監修『世界経済／社会統計』(東洋書林) は同書の翻訳書である。

国際通貨基金の *International Financial Statistics* も加盟国の国内および国際財政金融、国民経済計算の指標として欠かせない。

また、情報通信に関するデータを入手したいなら国際電気通信連合 (ITU) (<http://www.itu.int/>) や UNU (<http://www.unu.com/surveys/>) のホームページも有用であろう。 *World Development Indicators* でもインターネット、パソコン、携帯電話等の普及率等を一覧できる。なお、本稿で紹介した国際機関は当館ホームページサイト集からアクセスできるので活用いただきたい。

(こんぼ) きょうこ / 図書館書誌参考課主任